

五種混合予防接種を受けるにあたっての説明書

五種混合ワクチンは、百日せき・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ・ヒブワクチンの予防接種です（四種混合ワクチンとヒブワクチンが一緒になったものです）。

1. 病気の説明について

(1) 百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こります。患者数は減少してきていますが、最近、長引くせきの特徴とする学童から思春期、成人の百日せきがみられ、乳幼児への感染源となり重症化する例がありますので注意が必要です。

典型的な百日せきは、普通のかぜのような症状で始まり、続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続的にせき込むようになります。乳幼児はせきで呼吸ができず、唇が青くなったり、けいれんが起きるあるいは突然呼吸がとまってしまうことなどがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こしやすく、新生児や乳児では命を落とすこともあります。

(2) ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。現在、国内の患者発生数は年間0が続いていますが、アジア地域では、時折流行的発生がみられています。

感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあります。

(3) 破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中などにいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉のけいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状で気付かれ、やがて全身のけいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

(4) ポリオ（急性灰白髄炎）

小児まひとも呼ばれ、国内では1960年代前半までは流行を繰り返していました。予防接種の効果により、国内では、現在、野生株ポリオによる麻痺患者の発生はありません。

感染したヒトの便中に排泄されたポリオウイルスは、他のヒトの口に入り感染することで抵抗力（免疫）を持っていないヒトの腸内で増殖し、ヒトからヒトへ感染します。感染しても、ほとんどの場合は症状がでず、一生抵抗力（終生免疫）が得られます。ポリオウイルスに感染すると、100人中5～10人は、かぜのような症状があり、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。

（裏面もお読みください。）

また、感染した人の中で、約 1000 人～2000 人に 1 人の割合で手足の麻痺をおこします。一部の人には、その麻痺が永久に残ります。麻痺症状が進行し、呼吸困難で死亡することもあります。

(5) ヒブ(Hib)感染症

ヒブ感染症は、ヘモフィルスインフルエンザ菌 b 型という細菌によって発生する病気で、そのほとんどが 5 歳未満で発生し、特に乳幼児で注意が必要です。

主に気道の分泌物により感染を起こし、症状がないまま菌を保有（保菌）して日常生活を送っている子どもも多くいますが、この菌が何らかのきっかけで進展すると、肺炎、敗血症、髄膜炎、化膿性の関節炎等の重篤な疾患を引き起こすことがあります。

ヒブによる髄膜炎は、予後不良になる場合が多く、致命率は約 5%、てんかん、難聴、発育障害などの後遺症が約 25%に残ります。初期症状は発熱、嘔吐、けいれん等です。

2. 主な副反応について

主な副反応は、注射部位の紅斑、硬結、腫脹などの局所反応です。発熱を認めることもあります。極めてまれに、重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんがみられることがあります。

3. 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種を受けたことによって副反応が起こり、医療機関で治療が必要になった場合や、生活に支障が出るような障害が残った場合（健康被害）は、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。

* 給付申請の必要が生じた場合は、診察した医師または和歌山市保健所にご相談ください。

4 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

また、お子様が次のような状態の場合には、予防接種を受けることができません。

- ①明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます。）がある場合
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④明らかに免疫機能に異常がある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合

《お問い合わせ先》

和歌山市保健所保健対策課 感染予防対策グループ

TEL : 073 (488) 5118 FAX : 073 (431) 9980

和歌山市感染症情報センター <http://www.kansen-wakayama.jp/>

